

NO.	該当 ページ	委員 (敬称略)	意見内容	反映状況
1	1	神宮	・1～2Pのゴミ拾い、雪かきの例が適切でしょうか？ ⇒参加者の少ない、競技種目の少ないイベントより、老若男女多くの人が参加したくさんの競技種目のあるイベントの方が楽しい、という例示の方が良いのでは。 ・ゴミは路上に捨てないのがモラルで、路上に落ちているものではない。	素案ではゴミ拾いの例を良いイメージと悪いイメージで対比させ図示していましたが、「市民同士の明るいコミュニケーションのある、1つの理想的なまち」を図示することとしました。 (笑顔で挨拶している人、お年寄りの荷物を持ってあげる人、挨拶を交わすスクールガードの方と小学生 など) 雪かきの事例については、老若男女(子ども)誰でも参加できる協働の事例として非常に分かりやすいものであると認識しております。
2	1	村尾	「船橋も超高齢社会・人口減少社会が目の前に迫っています。まちの彩りが色褪せることなく、笑顔が輝き続けるために」の後に続く、説明を補足するものなので、「ゴミ拾い」ではなく、「お年寄りの荷物を持っている若者の姿」や「障害者の車いすを押す姿」など、周囲で助けあう様子をイラスト化した方がわかりやすいと思う。 ●「支えあえる社会」と「孤独に一人ひとりが暮らす社会」、どちらが住みやすいですか？ 等	上記に同じ
3	2	小出	「まちの彩りが色褪せることなく……」は、前行の超高齢社会の文言から老人が増えるから色がなくなると捉えられる可能性があるため、「いつまでも住みよいまちとなるために」くらいの方が良いと思います。	ご指摘のとおり反映しました。
4	2	村尾	「身近な存在」→「身近な存在である仲間」とした方がわかりやすい	ご指摘のとおり反映しました。
5	2	村尾	船橋市は雪はほとんど降らないので、この冊子を手取る市民がもっと身近に感じる内容に変更したほうがいいのではないのでしょうか？ ●家の周囲の雑草の草刈りや側溝の清掃など 周囲での助け合いの例	雪かきの事例は、老若男女誰でも参加できる近所の協力の事例として非常に分かりやすく、想像しやすいものと認識しております。また、より身近な例よりも、やや非日常的な雪かきは「自分ではない誰かがやってくれている」現状もあまり考えにくく、「自分のできること」という認識を持ちやすい事例と考えています。
6	3	村尾	イラストに外国人も加えていただきたい。多様性の時代です。船橋市にも多くの外国人が住んでいます。	現状適切なイラストがありませんが、外国人を入れる形で進めたいと思います。 なお、イラストについてはパブリックコメント等を踏まえた最終段階で、デザインも含めて業者委託をいたしますので、早い段階で確定できなことをご了承ください。
7	6	神宮	p6～7の図で、協働の主体が個人より団体の方が圧倒的に主体という印象が強い。団体、行政が主体となる官製の行動色を感じる。主体の数は多くても良いが行動の原動力は個人であると思う。草の根、ボトムアップ？	ご指摘のとおり、まちづくりの原点は市民参加であり、市民一人ひとりがその起点となっています。その観点で、この指針は第1章冒頭から個人の行動の事例などからスタートしています。一方、P6～7の図は「多様な主体との協働」を説明する箇所ですので、このようにシンプルに図示しております。
8	6	村尾	「障害者福祉」→「障害」または「障がい」へ	船橋市では、障害者基本法で使われている「障害」の表現を統一して用いており、これに沿った表現としております。
9	6	大間	P6「協働の主体」の具体例の表において地域団体に「マンション管理組合」を明記したほうが良いと思います。 理由：マンション管理組合は町会・自治会に含まれるという考え方もありますが、町会・自治会加入は基本的に任意である一方、マンション管理組合はその建物が存続する限りは必ず組織として組成し、存続しなければなりません。令和5年12月31日現在、船橋市内におけるマンション竣工数は1,212棟(68,726戸)となっており、今後もタワーマンションや大型マンション建設が計画されていることから、船橋市の街づくりの中においても大きなウェイトを占めていると思います。 マンション住人の意識付けと意識向上のためにも明記をご検討いただければと思います。	ご指摘のとおり反映しました。
10	6	早川	P6「協働の主体」の具体例の表において、個人にゴミゼロ推進委員などの制度ボランティアを加えても良いのではないかと。また、「等」の字はあまり良い印象を与えないので、「など」としてはどうか。	ご指摘のとおり反映しました。

NO.	該当 ページ	委員 (敬称略)	意見内容	反映状況
11	7	神宮	下方のコーディネート、説明をもう少し入れても良いのでは。コーディネート役が主体の中心であるかの錯覚が生じるのは良くない。トップ的存在、旗振り役、官製色は避けるべき。	コーディネートの説明文に、民間もコーディネートの主体になり得ることなどを加えました。また、前段の文章も行政がコーディネートを担うというよりは、民間・行政問わずコーディネート機能が今後必要となる旨に修正しました。
12	8	小出	官民の協働の前に前指針に掲載されていた「協働の領域」の説明を残す(入れる)方が行政活動と民間活動の関係、ここで掲載する官民協働の理解も得られやすくなると思います。	協働の領域については、やや学術的であり、また「官」の存在感が大きくなりすぎてしまい、市民に対する訴求効果は必ずしも高くないと判断いたしました。また、前指針では、協働の類型を説明する前段でこの図を使用しましたが、今回はPDCAの図の中で類型をまとめることに重点を置くこととしましたので、領域の図の掲載は見送ることとしました。
13	8	村尾	トピックの位置、協働の事例の説明の順番を考えたほうがいいのではないのでしょうか？	官民協働の類型について、市民の分かりやすさを高める意図を以て、敢えて冒頭にPDCAのフェーズ毎に図示することとしました。なお、その後の類型の説明がやや唐突でしたので、＜政策実施段階での協働類型＞を挿入しました。
14	8	早川	協働類型の中の、「後援」「補助金・助成金等」の中に、「支援する」という表現があるが、本指針の示す「協働における対等な立場」という観点では、「応援する」という表現の方が良いのではないか。	「後援」においては、行政目線での「支援する」という表現より、ご指摘の「応援する」の方が対等な意識が生まれると考え、ご指摘のとおり修正しました。一方、「補助金・助成金等」においては、行政の役割として「支援する」主旨がございますので、据え置くこととしました。
15	9	村尾	コロナとクラウドファンディングは関係がないように感じました。	直接的な関係性というよりは、クラウドファンディングが広く認知された1つの時代背景として捉えています。
16	10	村尾	「パーパス経営」の内容を加えていますので、下の部分の説明(「市民参加による」の部分は「市民や企業参加による」としたほうが、わかりやすいです。	企業(指針では「事業者」としてしています。)は今後の新たな「参加」が期待出来る主体の1つと考えておりますが、多様な主体の中の1つであり、ここでの市民参加の「市民」の解釈の中にも含まれるものと捉えております。
17	11	小出	浜松市の市民協働指針では、①市民向け、②中高生向け、③大学生向け、④自治会向け、⑤事業者向け、とターゲットごとの概要版を作成している。 11ページの後ろにこのようなターゲット毎の紹介を入れていただきたい。加えることで幅広く市民等の皆様に理解され活動も活発になることが期待できる。掲載が無理ならば、①から④の概要版を作成していただきたい。	資料編の前に、主体別行動の未来像を示すページを作成しました。
18	12	小出	基本構成NO.6を取り入れていただいた場合は、平成18年、平成20年、平成30年の経緯は再掲になると思いますので、それぞれに再掲と記載する必要があると思います。	冒頭に取り入れたこれまでの経緯等は年表式ではないため「再掲」の表記は不要と判断しました。
19	13	神宮	社会的背景について、自治会、PTAの解散、町会加入率の低下の今日⇔「協働」との関わり方必要性の記述があっても良いのでは。いや入れるべき。	巻末の資料編に、「地域社会の変化」という項目で追加しました。
20	13	村尾	コロナとクラウドファンディングに繋がりがありますか？	直接的な関係性というよりは、クラウドファンディングが広く認知された1つの時代背景として捉えています。
21	14	村尾	・高齢化のトピックの他に、「外国人の増加」も入れてはどうでしょうか？ ・「より複雑化・高度化する社会課題」トピックはよいのですが、文章がわかりにくいです。 ・「持続可能社会形成の意識の高まり」トピックは良いのですが、文章がわかりにくいです、	・新たに「地域社会の変化」というトピックを設け、その中で外国人居住者の増加について記載しました。 ・ご指摘の2トピックについて、分かりやすい表現に修正しました。